

改めて、年末手当減額の意味と、ベースアップにこだわった春闘の成果を、青女組合員に伝えていく必要を感じている。

●福知山市長選で大橋市長が再選、若手組合委員も選挙活動に参加したが、政治への関心が十分とは言えない。ユースタデイのテーマが政治ということで、ぜひ来年度に開催していただきたい。

大変厳しい状況である。現状、未加入者でも雇用が守られ、JR西労組の必要性を感じていない組合員が開始しており、東労組のような組織の瓦解が起る可能性も秘めている。目にはわかる組合員に寄り添う方法として、組合費の一時的な減額はできないか。

●「交通政策をすすめる会」の「分かりやすい資料を」
●若手組合員や手当が少ない職種は生活するのに精一杯である。今後の賃金の見直しについて教えてほしい。
●「交通政策をすすめる会」では、誰が何をしているのかが伝わっていない。誰もが目見てわかるような、分かりやすい説明しやす資料の作成をお願いする。

●「交通政策をすすめる会」では、誰が何をしているのかが伝わっていない。誰もが目見てわかるような、分かりやすい説明しやす資料の作成をお願いする。

未来を信じ、新しい活動を 青年女性委員会みんなで作り上げていこう

2020年10月11日(日)、ホテルグランヴィア京都に於いて、JR西労組中央本部青年女性委員会第30回定期委員会が開催された。新型コロナウイルス感染症予防策として、オンラインとの併用、会場の収容人数50%以下、1人1席など最大限の対策を行った開催となった。会場には、中央常任委員19名、委員69名が集結。冒頭、鶴石委員長は、感染リスクの中、エッセンシャルワーカーとして最前線で業務に動いている組合員に感謝を述べ、課題提起を行った。全体質疑では、「安全」「青女活動」「組織」「政治」など、18名の委員から39項目にわたる意見が出され、活動方針を補強した。その後、委員会スローガン「サプスローガン、活動方針等、満場一致で採択され、新たな役員体制が発足した。委員長に再任された鶴石委員長の団結ガンパローで、第30回定期委員会は閉会した。



当たり前の生活が当たり前でなくなった今、新たな当たり前を創り、全員で前に進むために団結ガンパロー

最前線の 医療従事者に光を 清水 葉奈

●本社総支部大阪鉄道病院
●コロナ専用病棟が設立され専門課外の患者を他病棟で受け入れるなど、不慣れな状況で勤務を行っている。最前線で働いている医療従事者に光が当たるよう、特別手当などの新設をお願いしたい。

結婚休暇の 取得制限撤廃を！ 岡田 隼人

●本社総支部大阪鉄道病院
●配偶者への対応が会社によって違いがあり、結婚休暇を利用しづらい状況がある。取得制限の撤廃や買取などの検討を要請する。

ユースタデイ 開催を切望 岡 秀洋 (福知山本地本)

●今年度の新規加入行動は例年とは違う取り組みとなっ

鶴石青年女性委員長挨拶(要旨) 今だからこそ、新たな当たり前を 創り上げていこう！



はじめに
感染リスクの中、エッセンシャルワーカーとして、最前線で業務に動んでいる組合員みなさんに感謝を申し上げます。

一度決めた年間臨給を見直す事は、雇用を守るための苦渋の決断である。理解をお願いしたい。

下ばかり向いていても何も始まらない。私たち青年女性委員会が前を向き、歩みを進めていこう。

安全について
福知山線列車事故から15年6ヵ月、伯備線触車事故から14年9ヵ月が経過した。

JR西日本に入社した以上、事故を知り、伝えていくことは義務である。

同じ意識を共有できていないとまた事故が起きる。安全に対する取り組みに終わりは無い。世界で一番安全な鉄道を作り上げていこう。

守るべきもの・やるべきことをしっかりと実践し、安全で安心して働ける職場を共に作り上げていこう。

政治と労働組合の関わりについて
安倍首相が辞任し菅新総理大臣が誕生。そんな中、立憲民主党と国民民主党の一部を除く議員が合流した。

JR西労組の政治の基本方針は、私たちの理念・政策に賛同する議員と、政治的課題に取り組むことである。

来年10月までには衆議院選挙がある。皆さんの貴重な1票をお願いする。

また、私たちが働く会社の固定資産税減免や、雇用調整助成金の延長、仲間であるJRグループの経営支援を

国に要請する

私たちの未来のため、全員が最低5人の名を書いて頂くようお願いする。

組織について
皆さんのおかげで、新入社員666名全員に加入をしていただいた。コロナ禍の中での取り組みに、改めて感謝を申し上げたい。新入組合員がJR西労組でよかったと感じてもらえる組織を作り上げなければという責任を感じている。

コロナ禍のため、歓迎会など行うことができず、新入社員にJR西労組がどういった組織なのか感じてもらう機会がない。このような状況だからこそ、普段からのコミュニケーションを大事にし、青女委員会の魅力・やりがい・誇りを伝えて頂きたい。

青女活動について
青年女性委員会の活動の目的は「仲間づくり」である。多くが集まり、膝を突き合わせて話をする。この当たり前の光景が、新型コロナウイルスにより、すべて奪われてしまった。また、生活スタイル、考え方が大きく変わってしまった。

今までの常識が、当たり前でなくなってしまった今、前に進むため、新たな活動を創るしかない。

今だからこそ、やらなければならない、出来ることを考えなければならない。

やまない雨はない。未来を信じて新しい活動を青女委員会みんなで作り上げていこうではないか？ JR西労組が先頭に立ち、活動を切り拓こう。

鶴石 貢

厳しい超勤ありきの給与体制
●岩崎 拳斗(中バス本地本)
●バス会社の超勤ありきの給与体制の現状は、大変厳しい。基本給の引上げについて、中央本部からも働きかけをお願いしたい。

●来年度はバスフォーラム開催を目指したい。



岡田委員 岡委員 原委員 尾本委員 藤岡委員 松本委員 板倉委員 岩崎委員

●オベ空勤務者の待機勤務など様々な課題に対して、広島地本と病院支部は今後も連携していく。
●「交通政策をすすめる会」の「分かりやすい資料を」
●若手組合員や手当が少ない職種は生活するのに精一杯である。今後の賃金の見直しについて教えてほしい。
●「交通政策をすすめる会」では、誰が何をしているのかが伝わっていない。誰もが目見てわかるような、分かりやすい説明しやす資料の作成をお願いする。

●「交通政策をすすめる会」では、誰が何をしているのかが伝わっていない。誰もが目見てわかるような、分かりやすい説明しやす資料の作成をお願いする。

●コロナ禍による経営の悪化、年末手当見直しにより、多くの若手組合員が生活に不安を覚えている。組合活動から距離を置いてしまうことを懸念している。

寄り添う組合として「組合費の減額」を
原 飛鳥(西バス本地本)
●鉄道では一時帰休、バスでは他有給に冬のボーナスの減額。

広島地本・病院支部は今後も連携
尾本 樹哉(広島地本)
●コロナ禍の中、いかにボランティア活動をするか。
●青女世代の組合意識を高めるにはどうしたらいいのか、中央本部の考え方を教えてほしい。

選挙に勝つために手段を選ばない動きに嫌気が差してくる。活動が減り、余った組合費を返金すべきではないか。
●青女組合員が基本組織と青女の役員を兼務することに対し負担を感じている。
●青女活動を経験し、基本組織で力を発揮するのが本来の姿。今度本部から発信してほしい。

●副業を求める声が大きくなっている。強く会社に要請してほしい。
●「交通政策をすすめる会」の「分かりやすい資料を」
●若手組合員や手当が少ない職種は生活するのに精一杯である。今後の賃金の見直しについて教えてほしい。
●「交通政策をすすめる会」では、誰が何をしているのかが伝わっていない。誰もが目見てわかるような、分かりやすい説明しやす資料の作成をお願いする。

●「交通政策をすすめる会」では、誰が何をしているのかが伝わっていない。誰もが目見てわかるような、分かりやすい説明しやす資料の作成をお願いする。

LGBT制度化に感謝
●藤岡 俊輔(神戸地本)
●昨年の定期委員会で発言したLGBTの内容が制度化され感謝申し上げる。
●活動が減り、余った組合費を返金すべきではないか。
●青女組合員が基本組織と青女の役員を兼務することに対し負担を感じている。
●青女活動を経験し、基本組織で力を発揮するのが本来の姿。今度本部から発信してほしい。